

宮崎県感染症週報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和7年第19週(ARIのみ第18週)の発生動向

□ 全数報告の感染症 (19週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 2 例。3 類感染症：報告なし。4 類感染症：報告なし。
5 類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 4 例、百日咳 58 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	女	肺結核	なし
			80歳代	女	無症状病原体保有者	なし
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	都城	90歳代	女	—	ショック、急性呼吸窮迫症候群、軟部組織炎
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60歳代	女	—	発熱、咳、全身倦怠感、意識障害、肺炎、菌血症
	梅毒	宮崎市	10歳代	女	早期顕症梅毒 I 期	硬性下疳
			20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			50歳代	男	無症状病原体保有者	なし
	延岡	50歳代	男	早期顕症梅毒 I 期	初期硬結	

疾患名	報告保健所	報告数	年齢群								症状
			0~4歳	5~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	
5類 百日咳	宮崎市	25例	1	4	15	3		1		1	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、スタカート、ウーブ、嘔吐、胸痛
	都城	15例		6	7		1	1			
	延岡	2例					1		1		
	日南	9例		4	5						
	高鍋	3例			3						
	日向	2例			2						
	中央	2例	1		1						

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・第 19 週の定点医療機関からの報告総数(急性呼吸器感染症除く)は 257 人(定点当たり 17.3)で、前週比 88%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎であった。また、第 18 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 1,459 人(定点あたり 52.1)で、前週比 99%とほぼ横ばいであった。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

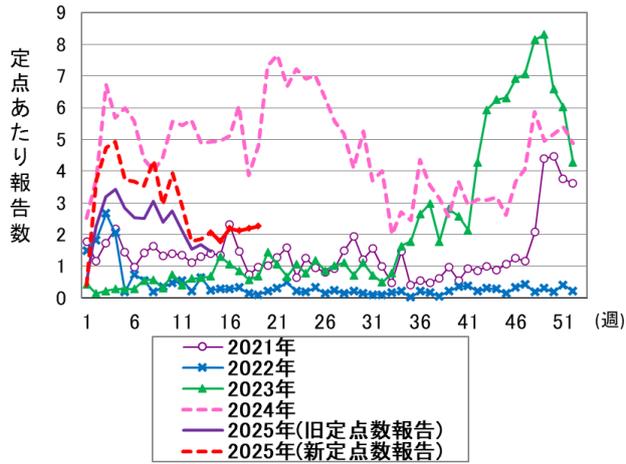
報告数は 34 人(2.3)で、前週比 103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(2.5)の約 0.9 倍であった。年齢群別は 2 歳から 8 歳が全体の約 8 割を占めた。

【感染性胃腸炎】

報告数は 135 人(9.0)で、前週比 81%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(8.9)の約 1.0 倍であった。年齢群別は 1 歳から 8 歳が全体の約 7 割を占めた。

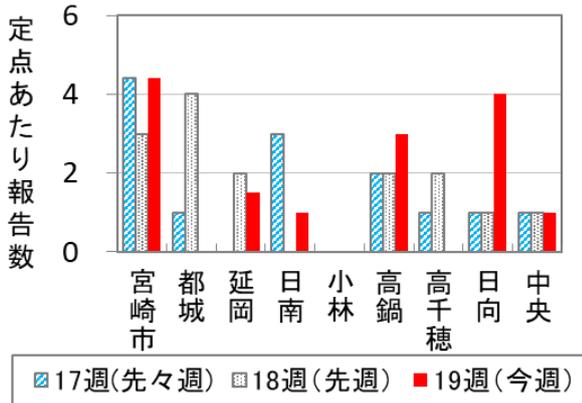
* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

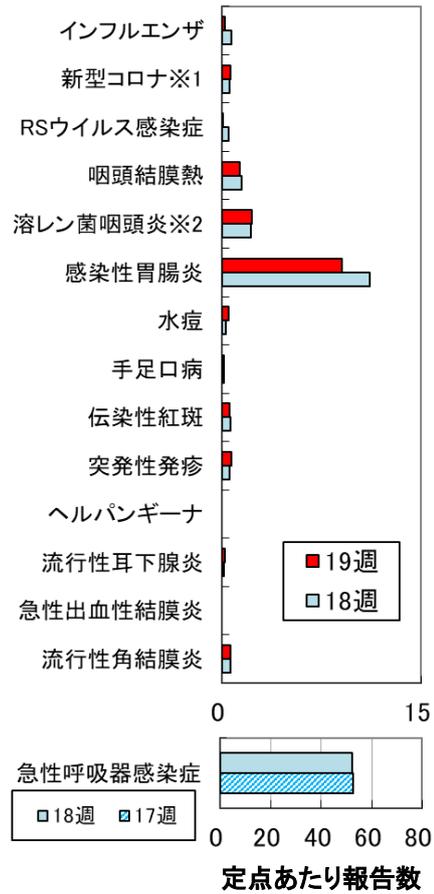


※2025年(新定点数報告)の第14週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3週分)

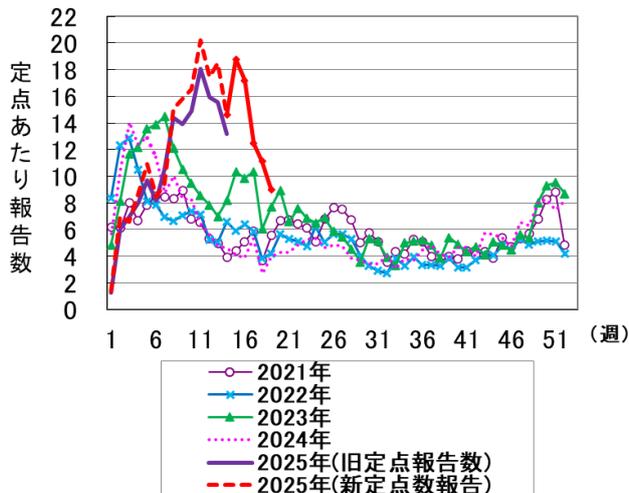


《前週との比較》



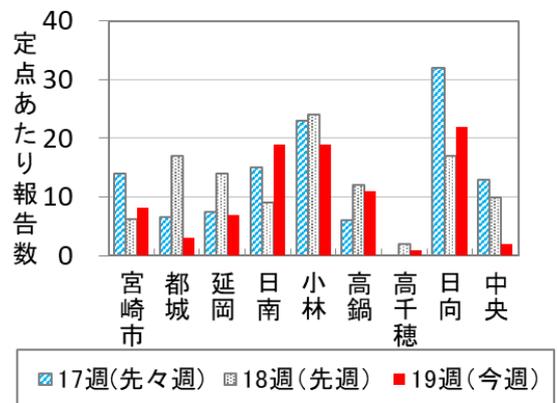
※1 新型コロナウイルス感染症
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

感染性胃腸炎 発生状況



※2025年(新定点数報告)の第14週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

感染性胃腸炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は4例(定点当たり0.6)で、宮崎市(2例)、高鍋(2例)保健所から報告があった。年齢は0～4歳が2例、5～9歳が2例であった。

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：報告数は3例(定点当たり0.4)で、日南(2例)、延岡(1例)保健所から報告があった。年齢は5～9歳が2例、10～14歳が1例で、病原体の群別はいずれも不明であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	水痘(1.5)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	感染性胃腸炎(22.0)
中央	なし

※流行警報レベル開始基準値※

・感染性胃腸炎(20)

※流行注意報レベル基準値※

・水痘(1)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)

(2025年第17週:4月21日～27日搬入分) (2025年第18週:4月28日～5月4日搬入分)

検出病原体		検出数	
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス		1	
RSウイルス	A型	0	
	B型	0	
パラインフルエンザウイルス	1型	0	
	2型	0	
	3型	4	
	4型	0	
ヒトメタニューモウイルス		1	
ライノウイルス		4	
エンテロウイルス		0	
アデノウイルス		0	
検出せず※2		3	
受付検体数		13	

検出病原体		検出数	
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	2
		山形系統	0
新型コロナウイルス		1	
RSウイルス	A型	0	
	B型	0	
パラインフルエンザウイルス	1型	0	
	2型	0	
	3型	5	
	4型	0	
ヒトメタニューモウイルス		0	
ライノウイルス		4	
エンテロウイルス		0	
アデノウイルス		0	
ライノウイルス・アデノウイルス		1	
検出せず※2		4	
受付検体数		17	

○ 急性呼吸器感染症 (ARI) ※1サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

パラインフルエンザウイルス3型とライノウイルスがそれぞれ第17週搬入分と第18週搬入分で約30%ずつを占めた。

パラインフルエンザウイルス (HPIV) は、乳幼児を中心とした呼吸器感染症の原因ウイルスの1つである。検出報告数が最も多いのはHPIV3型で、毎年初夏～秋にかけて検出報告が増加する傾向にある。ライノウイルス (HRV) は、小児から高齢者まで幅広い年齢層に上気道炎のみならず下気道炎 (気管支炎や肺炎など) を起こすことが広く認識されている。

※1 急性呼吸器感染症 (ARI) : 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 上記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

(細菌・ウイルスについては 2025 年 5 月 12 日までに検出分)

★細菌 報告なし

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus B (Victoria Lineage)※	5～9歳	男	2025.04.07	インフルエンザB型、40.0℃、頭痛、嘔気、嘔吐	鼻汁	2025.04.30
Influenza virus B (Victoria Lineage)※	0～4歳	女	2025.04.07	インフルエンザB型、40.0℃、気管支炎、嘔気、嘔吐	鼻汁	2025.04.30
Influenza virus B (Victoria Lineage)※	10歳代	男	2025.04.07	インフルエンザB型、40.0℃、頭痛、咽頭痛、気管支炎、下痢	鼻汁	2025.04.30
Influenza virus B (Victoria Lineage)※	5～9歳	男	2025.04.08	インフルエンザB型、39.2℃、咽頭痛	鼻汁	2025.04.30
human metapneumovirus	50歳代	女	2025.04.02	急性気管支炎、38.4℃、頭痛、咽頭炎	鼻腔ぬぐい液	2025.05.05
human metapneumovirus	20歳代	女	2025.04.02	急性気管支炎、38.8℃、咽頭痛	鼻腔ぬぐい液	2025.05.05
Rotavirus group A G3	0～4歳	男	2025.04.08	感染性胃腸炎、39.5℃、下痢、嘔気、嘔吐	便	2025.05.09
Norovirus G II.4 [P16]	0～4歳	男	2025.04.11	感染性胃腸炎、下痢、嘔気、嘔吐	便	2025.05.09
Rotavirus group A G3	0～4歳	男	2025.04.30	ロタウイルス感染症、下痢、嘔気、嘔吐	便	2025.05.09

※ ARI 病原体定点から検出されたウイルスのうち、分離されたウイルスも再掲

📊 全国 2025 年第 18 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	191 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	27 例		
4類感染症	E型肝炎	15 例	A型肝炎	4 例	重症熱性血小板減少症候群	7 例
	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	5 例	デング熱	1 例
	日本紅斑熱	19 例	マラリア	1 例	レジオネラ症	17 例
5類感染症	アメーバ赤痢	10 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	8 例
	急性脳炎	6 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	20 例
	後天性免疫不全症候群	7 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	67 例	水痘(入院例)	11 例	梅毒	159 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例	百日咳	1746 例
	麻しん	11 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数（急性呼吸器感染症除く）は前週比 82%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎であった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 91%と減少した。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 5,350 人(2.3)であった。例年同時期の定点当たり平均値*(2.3)の約 1.0 倍であった。茨城県(5.5)、宮城県(4.2)、鳥取県(4.2)からの報告が多く、年齢群別では 4 歳から 7 歳が全体の約半数を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 15,672 人(6.7)であった。例年同時期の定点当たり平均値*(5.7)の約 1.2 倍であった。大分県(13.4)、山口県(12.6)、愛媛県(12.2)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約 2 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2025年4月>

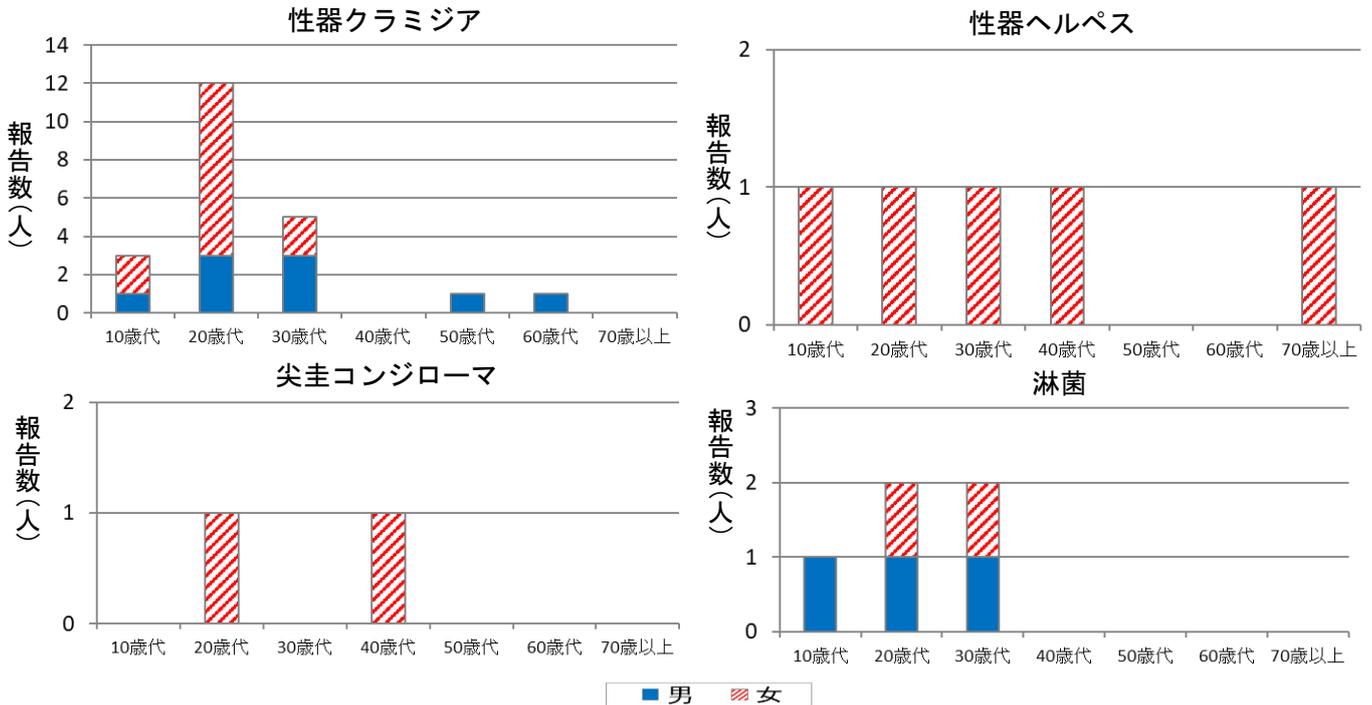
性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は34人(2.6)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年4月(2.9)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数22人(1.7)で、前月及び昨年4月の約1.0倍であった。
20歳代が全体の約半数を占めた。(男性9人・女性13人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約0.6倍、昨年4月の約0.8倍であった。(女性5人)
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月の2.0倍、昨年4月の約0.7倍であった。(女性2人)
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約1.7倍、昨年4月の1.0倍であった。
(男性3人・女性2人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,316人(4.5)で、前月比105%と増加した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,307人(2.4)で前月比106%、性器ヘルペスウイルス感染症873人(0.90)で前月比100%、尖圭コンジローマ524人(0.54)で前月比104%、淋菌感染症612人(0.63)で前月比107%であった。

薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は20人(2.9)で、前月比167%と増加した。また、昨年4月(2.7)の約1.1倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約1.7倍、昨年4月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,364人(2.9)で、前月比97%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,313人(2.8)で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症41人(0.09)で前月比60%、薬剤耐性緑膿菌感染症10人(0.02)で前月比200%であった。

宮崎県 感染症情報

(41定点医療機関)

2025年 第19週(05月05日～05月11日)

疾病名	第18週	第19週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	20	7	1		3			2	1	
	定点当り	0.71	0.25	0.11	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00	0.50	0.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	16	17	3	4	2	2	3		2	1
	定点当り	0.57	0.61	0.33	1.00	0.67	1.00	0.00	1.50	0.00	1.00
RSウイルス感染症	報告数	7	1		1						
	定点当り	0.47	0.07	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	22	20	12	5	1	1				1
	定点当り	1.47	1.33	2.40	2.50	0.50	1.00	0.00	0.00	0.00	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	33	34	22		3	1	3		4	1
	定点当り	2.20	2.27	4.40	0.00	1.50	1.00	0.00	3.00	0.00	4.00
感染性胃腸炎	報告数	167	135	41	6	14	19	19	11	1	22
	定点当り	11.13	9.00	8.20	3.00	7.00	19.00	19.00	11.00	1.00	22.00
水痘	報告数	4	7	4		3					
	定点当り	0.27	0.47	0.80	0.00	1.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	2	2	2							
	定点当り	0.13	0.13	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	10	9	7	1	1					
	定点当り	0.67	0.60	1.40	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	9	11	3	3		1	2			2
	定点当り	0.60	0.73	0.60	1.50	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	2.00
ヘルパンギーナ	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	2	3	1		1					1
	定点当り	0.13	0.20	0.20	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
流行性角結膜炎	報告数	4	4	2		2					
	定点当り	0.67	0.67	0.67	0.00	2.00					
細菌性髄膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	4	2				2			
	定点当り	0.14	0.57	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	3	3			1	2				
	定点当り	0.43	0.43	0.00	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00

2025年 第18週(04月28日～05月04日)

	第17週	第18週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	1475	1459	337	140	267	76	206	70	92	157
	定点当り	52.68	52.11	37.44	35.00	89.00	38.00	103.00	35.00	46.00	78.50

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2025年 第1週～19週 保健所受理分)

2類感染症	結核	42例(2)									
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例								
4類感染症	E型肝炎	2例		A型肝炎	1例		重症熱性血小板減少症候群	2例			
	つつが虫病	8例		日本紅斑熱	2例		レジオネラ症	2例			
5類感染症	アメルバ赤痢	2例		ウイルス性肝炎	1例		急性脳炎	2例			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7例(1)		後天性免疫不全症候群	2例		侵襲性肺炎球菌感染症	15例(1)			
	水痘(入院例)	1例		梅毒	50例(4)		播種性クリプトコックス症	1例			
	破傷風	1例		百日咳	682例(58)						

()内は今週届出分、再掲